

5 STAR かがやきプロジェクト ～『ひっきやでしゅい。(みんなでしよう)』つなぎ つながる かがやく 北明～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内小学校運営協議会委員数)	地域学校協働活動
白石町立 北明小学校	北明小学校学校運営協議会 平成28年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 4名 3名	北明小学校 地域学校協働活動



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

コミュニティ・スクールの導入で「地域とともにある学校の実現」を目指す中、白石町では「笑顔で元気に学校へ通う子ども」「目標を持ってさわやかに取り組む子ども」「わが町を誇りに思う子ども」といった育てたい子ども像を掲げ、ひっきやでしゅい(みんなでしよう)の理念の基、地域住民が学校運営にも参画し皆で子どもたちを育てていく体制作りが必要となっていた。

目標や目指す姿(学校)

『ひっきやでしゅい。(みんなでしよう)』つなぎ つながる かがやく 北明 ～学校と地域が連携・協力し、地域で子どもたちを育てる～

目標や目指す姿(地域)

人と大地がうるおい 輝く 豊穡のまち



北明小学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|--------------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 社会教育、児童教育委員 | <input type="checkbox"/> 地区交通安全協会関係者 |
| <input type="checkbox"/> 校区教育振興会関係者 | <input type="checkbox"/> 校区内保育園園長 |
| <input type="checkbox"/> 校区老人会関係者 | <input type="checkbox"/> 町学校教育課、生涯学習課職員(各1名) |
| <input type="checkbox"/> 校区公民館関係者 | など、計 18 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 校区駐在員 | 年間平均 3 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

「5 STAR かがやきプロジェクト」という本校独自の組織体制を取っている。本プロジェクトはSocial(地域貢献、地域伝承)、Study(学習支援)、Safety(安全確保、環境整備)、Surprise(体験学習、学校支援)、Special(特別な学習)の計5つの取組を担う組織で構成されており、各組織では協議会委員が担当として取組運営や調整等の中心を担っている。これにより様々な角度からの課題等に同時並行で対応でき、学校だけで把握しきれない地域人材との連携を行えている。また、各組織は学校PTAにも紐づいており、PTA役員が担当組織を協議会とともに担うことで保護者との迅速な連携・情報共有が行えている。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

各委員が得意分野・専門分野に基づき5つの組織に分れて学校行事等を担当することで、①専門的・密接的な学校行事への参画・支援、②必要に応じた人材等の仲介を行っている。
登下校に関する対策では、①PTA(保護者)の積極的介入の要請②各種団体への自力登校に係る共通理解の場の要請を行い、連携・協力の了承・認識共有を得た。



学校運営協議会の様子

地域学校協働活動

本校は校区が広く、全国でも珍しい自転車登校のある小学校である。そこで、登下校に関する対策として、学校運営協議会委員や地域の方々による毎朝の交通指導や新1年生への下校指導、警察署・役場と連携した自転車教室などを行っている。活動時の様子は学校と共有され、運営方針等の決定の参考となっている。



地域の人と連携した交通指導

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校PTAなど学校後援団体や校区老人会・公民館・保育園など小学校以外の地域の核となる団体の代表者等が協議会委員となっているため、運営協議会で協議した内容を直ぐに関係団体へつなげることができる。また、各地域団体への依頼や各地域団体からの提案事項等を運営協議会内で共有することができ、運営協議会が各種地域団体への連絡調整の場としての役割も担っている。協議会委員には役場職員も任命されており、行政機関との連携等についても迅速に行うことが可能となっている。

取組

成果・効果

校長や教頭のみであった学校の窓口的役割が複数となり、地域住民が学校行事へ参画する機会が広がった。また、委員ごとに主の担当分野を絞ったことで専門的な意見が出やすくなっており、令和4年度においては例年の活動とは別に以下の新たな提案がなされ実行に向けて進んでいる。

【令和4年度に提案された新たな取組】

- ・《Safety》自力登校に係る共通理解の場の要請(地域団体長が参集する会議での協議)
- ・《Special》校区内スタンプラリーの開催

【C・S事業5年目(令和2年度)の際に行われた総括アンケート結果】

- (保護者) ・地域の方々と一緒にいろいろな体験をすることができてありがたい。
・地域の人達の協力で色々な体験を通して白石のよさを感じています。
- (教職員) ・様々な体験活動により、地域のよさを感じている子どもが多い。

学校実施アンケート(保護者回答)過去3年間の実績

	R4	R3	R2
地域の方々や関係団体等と連携した教育が推進されているか	3.4	3.4	3.4

※1~4点(4点が最高評価)の評価方式。

※上記点数は全回答の平均点。

コロナ禍で活動が制限される中、保護者からの評価も高水準(100点換算で85点)を保っている